

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32692

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520193

研究課題名(和文)大阪万博における前衛芸術 考察と国際比較

研究課題名(英文)Avantgarde Art in EXPO'70-Research and International Comparison

研究代表者

暮沢 剛巳 (KURESAWA, Takemi)

東京工科大学・デザイン学部・准教授

研究者番号：80591007

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：従来の大阪万博研究は、戦後復興や高度経済成長といった文脈から言及されることが大半であった。しかし本研究では、大阪万博が戦後の海外の万博から多大な影響を受けており、また前衛芸術家はその実験的な展示に深く関わっているのではないかと仮説を立て、その立証を試みた。3年間を通じて、研究代表者と研究分担者は数回に渡り海外の万博会場跡地を訪れ、大阪万博が58年のブリュッセル万博及び67年のモントリオール万博と特に近い関係にあること、また複数のパビリオンにおいて画家、作曲家、映像作家、グラフィックデザイナーといった前衛芸術家たちが重要な役割を果たしていたことを解明した。

研究成果の概要(英文)：EXPO'70 in Osaka has been mainly referred in the domestic context such as postwar reconstruction or rapid economic growth in Japan. But this research has made clear that a lot of avant-garde artists had important roles in EXPO'70 under a influence from preceding foreign EXPOs in the post war era. Visiting some foreign EXPO venues, collecting various materials and examining several important pavilions, during this three years surveillance period, we treated that a lot of avant-garde artists such as painters, composers, film directors, graphic designers, etc greatly contributed to the experimental displays of EXPO'70. From this point of view, it had great affinity for EXPO'58 in Brussels and EXPO'70 in Montreal.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・美術史・芸術一般

キーワード：大阪万博

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者である暮沢は美術、デザインを、また研究分担者である江藤は音楽を主な対象領域とするなど、両者の専門とする研究領域は異なっているが、ともに前衛芸術に強い関心を寄せるなど、相互の問題意識はある程度重なっていたため、共同研究の可能性を模索するようになった。

そして、多くのやり取りを繰り返した結果、様々なジャンルの芸術家が一堂に会する万国博覧会の研究であれば両者の専門性を生かすことができるのではないかと結論に達した。その一方で、1970年の大阪万博は未曾有の国家事業でありながら、そこに多くの前衛芸術家が深くかかわっていた事実は今までほとんど注目されてこなかったため、そこに注目すれば従来とは異なる新たな成果が得られるのではないかと考え、同博と前衛芸術の関係を研究の核に据えることを決定した。

2. 研究の目的

本研究では、1970年に開催された日本万国博覧会(以下大阪万博と記す)の各種の展示においては前衛芸術家が大きな役割を果たしたのではないかと仮説に基づき、会期中に実施された多くの展示の中でも、前衛的な美術家・建築家・デザイナー・音楽家らが協同した企画に焦点を合わせ、可能な範囲で資料を収集することとした。これは、大阪万博という題材を扱うに当たっては研究対象を絞り込む必要があったためと、研究の基礎となる事実関係を積み上げる必要があったためであった。

次に、1958年のブリュッセル万博や1967年のモンテリオール万博など、大阪万博に先行して開催された戦後の万博、そして大阪万博後の動きにも着目し、それらにおける同種のプロジェクトを調査・研究することにより、万博という場が総合芸術の表現に対しどのような可能性を与え、それを実現したのか、さらにはそれが戦後の前衛芸術運動においてどのような位置を占めていたのかを検討することとした。これは、大阪万博において前衛芸術家が重要な役割を果たすことになったのは、戦後の海外の万博からの多大な影響が背景となっていることを立証するためであった。

以上の作業を通じて、われわれは大阪万博において前衛芸術が果たした役割を解明することを目的とした。

2. 研究の方法

(1) 現地調査。研究題目に「国際比較」を掲げる本研究では海外の万博の研究が不可欠である。特に大阪万博に多大な影響を与えた1967年のモンテリオール万博に関しては現地調査が必須と考え、2012年秋に2名での現地調査を実施し、会場跡地をはじめ現在には他の用途に転用されている当時のパビリ

オンや施設建築、現地に今も残る美術作品や万博開催時の様子を伝える博物館の展示などを詳細に見て回り、また資料を収集した。その他、研究が開始された2011年4月から満了した2014年3月までの3年間を通じて、1958年のブリュッセル万博、1992年のセビリア万博、2000年のハノーバー万博、2012年の麗水万博も対象とし、同様に詳細な現地調査や資料収集を行った。なおこれらの調査は2名合同で行うことを基本としていたが、相互の所属機関のスケジュールの都合上調整がつかず合同調査が不可能な場合もあったため、ときには暮沢、江藤ともに単独で海外に渡航して調査を実施した。

(2) 文献調査及び聞き取り。大阪万博に関しては膨大な先行研究が存在するが、その中において前衛芸術の問題を扱った先行研究はほとんど存在しない。そのため本研究では、既存の大阪万博研究のなかから、前衛芸術に言及したものを丹念に拾っていくという手法、大阪万博にかかわった前衛芸術家の著作における当時の記述を参照する手法、さらに海外からの視線を意識して外国の文献から情報を採取するという手法を採用した。また調査の過程で、当時を知る関係者の証言が重要であることが判明したため、暮沢と江藤は聞き取り調査を企画した。多くの関係者が既になくなっていく中で、われわれは丹下健三の下で基幹施設の設計に携わった建築家の曾根幸一と、複数のパピリオンで作曲や音響展示に携わった作曲家の一柳慧が健在であることを突き止め、両者への面会を申し入れて聞き取り調査を実施した。

4. 研究成果

本研究は申請前の計画段階から両者の研究成果をまとめた共著を出版することを最終目標としてきたが、幸いにして初年度に青弓社という出版社からその計画への賛同を得ることができた。そのため、その成果は主に同社のホームページに暮沢と江藤の論文を「大阪万博のインパクト」というタイトルの下に不定期に発表するという形で行われ、現時点で総計12本の論文が発表されている。12本の論文はいずれもどちらかの単著である。各論文のタイトルなど詳細は「5. 主な発表論文等」を参照のこと。

各論文はいずれも大阪万博における前衛芸術の役割を検証する観点から書かれたもので、岡本太郎を経由した大阪万博と原子力発電の関係、せんい館、鉄鋼館、ペプシ館、ドイツ館などの各種パピリオンのユニークな展示、ピリー・クルーヴァーやカールハイツ・シュトックハウゼンのような海外の前衛芸術家の貢献、具体美術協会のリーダーであった吉原治良や著名な音楽評論家であった秋山邦晴らの関与、ブリュッセル万博やモンテリオール万博が大阪万博に与えた影響などをある程度解明し、従来大阪万博研究にはなかった要素を盛り込むことができた。

この研究はホームページ連載時から注目を集め、多くの反響が寄せられた。代表的なものとしては、大阪万博における原子力発電と岡本太郎の関係に関心を寄せる文芸評論家からの問い合わせ（〔雑誌論文〕に対するもの）や、秋山邦晴の仕事に関心を寄せる地方放送局からの問い合わせ（〔雑誌論文〕に対するもの）などが挙げられる。2013年春には、〔雑誌論文〕で具体美術協会について取り上げた暮沢の元にアメリカのグッゲンハイム美術館より当時同館にて開催されていた「Gutai Splendid Underground」展のカタログが寄贈されるなど、本研究が海外の研究者の間でも注目されている事実が確認された。また暮沢は2回にわたって大阪万博をテーマとした発表に招かれる機会があり、それぞれ「東京オリンピックと大阪万博の関係」「パピリオンからみた大阪万博」という観点から研究発表を行った。

なお、これらの論文を加筆訂正し、未発表の論文1篇、および曾根幸一と一柳慧のインタビューを加えた2名の共著書が同社より出版されることが決定しており、この共著書が本研究の最終報告となる予定である。詳細は5の〔図書〕を参照のこと。また3年間の間には、この連載以外にも研究成果を発表する機会があったため、5にはそれも併せて記載する。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

江藤光紀、大阪万博のインパクト、第8章 評論家と作曲家とプロデューサーと秋山邦晴の万博、査読無、2013

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto11.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト 第7章 一作曲家の想念の宇宙 ドイツ館のシュトゥックハウゼン、査読無、2013

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto10.html>

暮沢剛巳、大阪万博のインパクト 第6章 具体美術祭り 戦後前衛の最後の花道、査読無、2013

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto9.html>

暮沢剛巳、大阪万博のインパクト 第5章 ペプシ館「独自の単一性と全体性」に見るモンテリオール万博からの問題継起、査読無、2013

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto8.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト 第4章 詩人・武満徹と闘将・クセナキス、査読無、2013

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto7.html>

[nsai/kuresawaeto7.html](http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto7.html)

暮沢剛巳、横尾忠則主要作品改題、ユリイカ、査読無、Vol.9、2012、pp.92 - 102

暮沢剛巳、大阪万博のインパクト 第3章、せんい館「エロスとタナトス」が生成される「環境」、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto6.html>

暮沢剛巳、大阪万博のインパクト、第2章 万博と原子力 アトムウムから太陽の塔へ、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/kuresawaeto5.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト、第1章 光と影、未来と過去 SF的想像力が切り取る万博（下）、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto4.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト、第1章 光と影、未来と過去 SF的想像力が切り取る万博（下）、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto4.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト、第1章 光と影、未来と過去 SF的想像力が切り取る万博（中）、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto3.html>

江藤光紀、大阪万博のインパクト、第1章 光と影、未来と過去 SF的想像力が切り取る万博（上）、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/kuresawaeto2.html>

暮沢剛巳、大阪万博のインパクト、序章 大阪万博と前衛芸術を語るために、査読無、2012

DOI:<http://www.seikyusha.co.jp/wp/rennsai/banpaku/page/2>

〔学会発表〕（計2件）

暮沢剛巳、パピリオンから観た日本万博、記録映画アーカイブ・プロジェクト、2014年3月1日、東京大学大学院福武ホール（東京都）

暮沢剛巳、東京オリンピックと大阪万博、東京オリンピックデザインプロジェクト展コロキウム、2013年4月21日、東京国立近代美術館講堂（東京都）

〔図書〕（計2件）

暮沢剛巳、江藤光紀、青弓社、大阪万博が演出した21世紀 前衛の時代の想像力（仮題）、2014、280頁（予定）

江藤光紀、東信堂、美を究め美に遊ぶ 芸術と社会のあわい、2013、pp.168 - 184

6 . 研究組織

(1)研究代表者

暮沢剛巳 (KURESAWA, Takemi)
東京工科大学・デザイン学部・准教授
研究者番号 : 8 0 5 9 1 0 0 7

(2)研究分担者

江藤光紀 (ETO, Mitsunori)
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号 : 1 0 3 4 8 0 5 1